

小児看護学評価方法論	—	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 岡田 摩理・神道 那実				
対応するディプロマポリシー (DP) ・看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。(研究・教育者コース) ・専門領域における卓越した看護実践能力を有している。(CNS・認定看護管理者コース)				

授業目的及び到達目標

【授業目的】

子どもと家族の発達および生活の質の向上を支援するために、包括的に査定するための方略や技術・技法を修得する。

【到達目標】

1. 子どもの発達状態の評価方法を理解し、発達スクリーニングを行うことができる。
2. 子どものQOL及び家族機能を評価し、それらを高める看護について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション / 子どもの発達評価	岡田・神道
2	子どもの発達と評価：(1) デンバー 発達判定法	神道 那実
3	子どもの発達と評価：(2) 津守・稲毛式乳幼児精神発達診断法	神道 那実
4	子どもの発達と評価：(3) 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法	神道 那実
5	子どもと家族の発達と評価：(4) 新版K式発達検査法	神道 那実
6	子どもの痛みとQOL	岡田 摩理
7	子どものQOL測定方法、QOL測定上の問題点	岡田 摩理
8	子どものQOLと成人のQOLとの違い	岡田 摩理
9	子どもと家族の発達評価	岡田 摩理
10	子どもと家族のQOLの評価とQOLを高める看護	岡田 摩理
11	家族機能の評価	岡田 摩理
12	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際 (演習)	神道 那実
13	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際 (演習)	神道 那実
14	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際 (演習・プレゼンテーション)	岡田・神道
15	まとめ ・ 授業評価	岡田・神道

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に予習・復習を行う。
 ・授業への参加準備 (各回ごとに45分程度)
 ・授業後の復習 (各回ごとに45分程度)
 ・発達スクリーニングの演習 (7.5時間程度)
 ・レポート課題への取り組み (15時間程度)

教科書

なし

参考図書

開講時参考文献リストや、随時授業で資料の提示・配布を行う。

評価方法

討議への参加 (50%)、レポート (50%) を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

なし